

大栄環境株式会社による産業廃棄物処理施設（管理型最終処分場）の変更に係る
生活環境影響調査書〈平井第8工区〉に対する意見と事業者の回答のまとめ

No.	項目	意見	事業者の回答の概要																																						
1	水質	○処分場の拡張に伴い、浸出水調整槽は増設するが、浸出水処理施設の能力を增強する必要がない理由を示されたい。	<p>○既設工区の浸出水処理施設の能力は、変更前は400 m³/日であるが、変更後は、既設工区は最終覆土済みで雨水が浸透しにくいいため、300 m³/日で足りることになり、100 m³/日の余力が生じる。</p> <p>○この余力100 m³/日を増設工区用とする。このため、浸出水調整槽を増設し、水処理に支障がでないようにする。</p> <p style="text-align: right;">表1 変更前後の浸出水処理施設の能力 (m³/日)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">工区</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>処理能力</th> <th>状態</th> <th>処理能力</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">既設</td> <td>平井5工区</td> <td>250</td> <td>埋立中</td> <td>200</td> <td>埋立終了し、最終覆土済み</td> </tr> <tr> <td>平井8工区 (既許可区域)</td> <td>150</td> <td>埋立中</td> <td>100</td> <td>埋立終了し、最終覆土済み</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>400</td> <td></td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>増設</td> <td>平井8工区 (増設区域)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>100</td> <td>埋立中</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>400</td> <td></td> <td>400</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(浸出水調整槽の増設について)</p> <p>○既設工区の浸出水調整槽は、変更前は9,123m³であるが、変更後は7,196m³で足りることになり、1,927m³の余力が生じる。</p> <p>○過去15年間のうち年間降水量最大年(1998年)・月間降水量最大年(1999年)の日降水量データや浸出水処理施設の能力(100 m³/日)を用いて、増設工区用の浸出水調整槽の必要容量を計算したところ、4,509m³であり、余力の1,927 m³だけでは、この容量に不足するため、浸出水調整槽を増設する。</p> <p>○必要容量4,509m³から余力の1,927 m³を除いた2,582 m³の増設が必要であり、この容量を確保するよう設計した結果、増設容量は2,898 m³ (余力と合わせると4,825 m³)とする。</p>	区分	工区	変更前		変更後		処理能力	状態	処理能力	状態	既設	平井5工区	250	埋立中	200	埋立終了し、最終覆土済み	平井8工区 (既許可区域)	150	埋立中	100	埋立終了し、最終覆土済み	小計	400		300		増設	平井8工区 (増設区域)	—	—	100	埋立中	合計		400		400	
区分	工区	変更前				変更後																																			
		処理能力	状態	処理能力	状態																																				
既設	平井5工区	250	埋立中	200	埋立終了し、最終覆土済み																																				
	平井8工区 (既許可区域)	150	埋立中	100	埋立終了し、最終覆土済み																																				
	小計	400		300																																					
増設	平井8工区 (増設区域)	—	—	100	埋立中																																				
合計		400		400																																					
2	水質	○新たに設置するとしている、ほう素除去装置の概要について示されたい。	<p>○ほう素除去装置としては、キレート吸着剤(N-メチルグルカミン型)を充填したイオン交換樹脂塔を設置する。</p> <p>○現在、詳細設計中で、平成27年3月中に稼働開始予定である。</p>																																						

No.	項目	意見	事業者の回答の概要
3	水質	○浸出水処理施設の排水の放流先である青池において、水質と水位の調査を行われたい。	○青池において、今までと同様に水質調査を年1回行う。 (測定項目：pH、BOD、カドミウム・全シアン等の健康項目、ダイオキシン類等の33項目) ○また、水質調査時に青池の水位測定を行うこととし、これらのデータの傾向をみていく。
4	水質	○豪雨時において、浸出水が処分場のえん堤から漏出することがないように処分場内の水位測定を行うとともに、洪水調整池での水質測定について検討されたい。	<p>○処分場内の水位は、縦向き集排水管と連通している浸出水集水ピット※の水位と同じである。このため、毎日、このピットの水位を監視する。 ※浸出水集水ピット：集排水管から流入する浸出水を一時的に貯留するピット。 このピットから隣接する浸出水調整槽へ送水する。</p> <p>○浸出水が処分場のえん堤から漏出しないよう、日常管理及び以下の対策を行う。洪水調整池での水質測定は、万一、漏出した場合に行う。</p> <p>(処分場内の水位上昇による漏出の防止について)</p> <p>○処分場内の水位が上昇しないよう、処分場の底に設置した集排水管で浸出水を浸出水調整槽へ排水する。</p> <p>○堺気象観測所における日降水量データ（1998年1月～2014年9月）や浸出水処理施設の能力を用いて、水処理されずに貯まる浸出水量を計算したところ、最大で4,509 m³であった。</p> <p>○この最大浸出水量は、浸出水調整槽容量 4,825m³ と内部貯留可能量※13,971 m³ の合計 18,796m³ を十分下回っており、豪雨時にも浸出水は1段目のえん堤から漏出しない。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>浸出水調整槽容量と 内部貯留可能量の合計 18,796m³</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>浸出水調整槽容量 4,825m³</p> </div> <p style="text-align: center;">年(1998年1月～2014年9月)</p>

図1 水処理されずに貯まる浸出水量の経日変化
(堺気象観測所における日降水量データを用いて算出)

No.	項目	意見	事業者の回答の概要
-----	----	----	-----------

※内部貯留可能量：処分場の底面から1段目えん堤の底面までの容積に空隙率を考慮した量

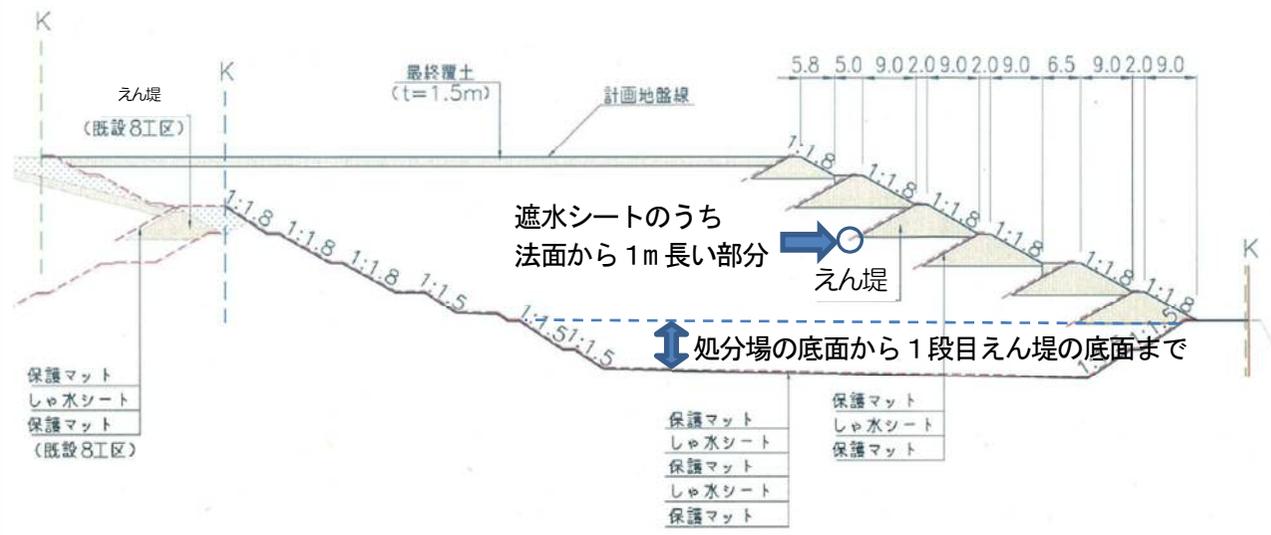


図2 処分場断面図

(雨水の処分場内の流下による、えん堤からの漏出防止について)

- 浸出水がえん堤から漏出しないよう、以下の対策を行う。
 - ・えん堤の法面（処分場の内側）の遮水シートは、法面の長さより1m長くする。
 - ・2,000m²に1箇所、縦向き集排水管を設置し、えん堤下部では、浸出水がこの集排水管に向かって処分場の内側に流れるよう、廃棄物層や覆土層に勾配をつけて埋め立てを行う。
 - ・宙水の発生を未然に防ぐよう埋立を行う。
- なお、平井5工区及び平井8工区（既許可区域）は同じ構造で、現在まで浸出水の漏出はない。

(日常管理について)

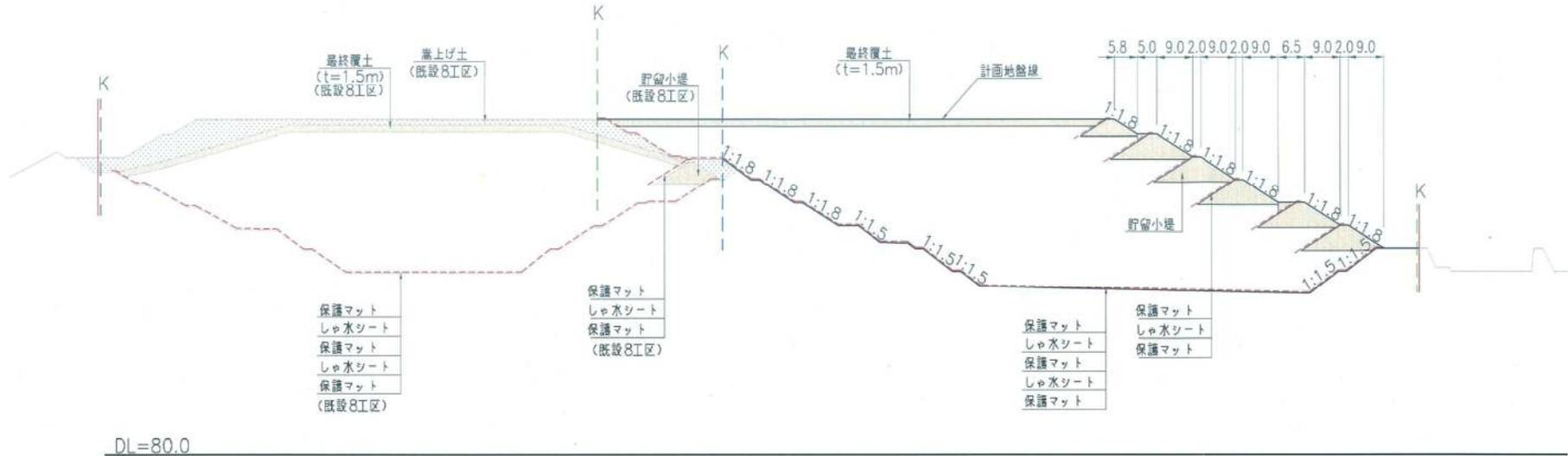
- 日常管理を以下のとおり行う。
 - ・毎日、えん堤の目視点検を行う。なお、豪雨時には速やかに目視点検を行う。
 - ・毎日、浸出水集水ピットの水位を監視する。
 - ・集排水管が閉塞しないよう、集排水管内を定期的にカメラで確認し、蓄積物は高压洗浄水により清掃する。

No.	項目	意見	事業者の回答の概要																																											
			<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物を埋めた層のえん堤毎に、当該えん堤の排水溝で水質の簡易分析を行う。 ・内部貯留が認められた場合には、毎日、処分場内の縦向き集排水管 3ヶ所（集水ピットに最も近い管と最も遠い管・処分場の中央にある管）で水位を観測する。 <p>(万一、えん堤から漏出した場合の対応について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○万一、えん堤から漏出した場合は、以下の対応を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・漏出箇所のえん堤の排水溝を土嚢で塞ぎ止め、漏出水をポンプで浸出水調整槽へ送る。 ・原因究明を行い、えん堤の補修に直ちに着手する。 ・洪水調整池及び下流域の水質を調査する。 ・関係行政機関や地元水利組合等へ速やかに報告を行う。 																																											
		○なお、隣接する第5工区についても、同様の対応を行うことが望ましい。	○以上の維持管理及び異常時対応は、平井5工区においても同様に行う。																																											
5	騒音	○埋立期間中に、敷地境界付近等に住居等の保全対象施設が立地する場合に講ずる騒音対策（防音壁等）について具体的に示すとともに、その騒音対策を実施した場合の予測結果を示されたい。	<p>○騒音の発生源は、埋立作業機械（油圧ショベル、ブルドーザ）、浸出水処理施設であり、埋立作業機械については、低騒音型を用いること、埋立作業は9時から17時の昼間に行うこと、不必要なアイドリング禁止する等の環境保全対策を行う。</p> <p>○埋立期間中に保全対象施設が立地した場合は、敷地境界に鋼板の防音壁を設置する。</p> <p>○保全対象施設が敷地境界から1m付近に立地し、防音壁の高さは、北東側敷地境界で3m、北側敷地境界で5mとして予測した。</p> <p>○予測結果（L_{A5}）は騒音規制法の規制基準値以下である。</p> <p style="text-align: center;">表2 騒音対策を実施した場合の予測結果（L_{A5}） (dB)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">予測時間帯</th> <th colspan="6">予測結果（L_{A5}）</th> <th rowspan="3">時間 の区分</th> <th rowspan="3">(注3) 規制 基準 値</th> </tr> <tr> <th colspan="3">北東側敷地境界</th> <th colspan="3">北側敷地境界^(注1)</th> </tr> <tr> <th>寄与 レベル (1)</th> <th>バックグラウンド レベル (2)</th> <th>予測結果 (1+2)</th> <th>寄与 レベル (1)</th> <th>バックグラウンド レベル (2)</th> <th>予測結果 (1+2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋立作業 実施時間帯 (9～17時)</td> <td>39 (38.7)</td> <td>51 (51.2)</td> <td>51 (51.4)</td> <td>51 (50.7)</td> <td>54 (53.5)</td> <td>55 (55.3)</td> <td>昼間</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">埋立作業 停止時間帯 (17～9時)</td> <td rowspan="3">21 (21.2)</td> <td rowspan="3">45 (44.6)</td> <td rowspan="3">45 (44.6)</td> <td rowspan="3">32 (32.3)</td> <td rowspan="3">45 (44.6)</td> <td rowspan="3">45 (44.8)</td> <td>朝・夕</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	予測時間帯	予測結果（L _{A5} ）						時間 の区分	(注3) 規制 基準 値	北東側敷地境界			北側敷地境界 ^(注1)			寄与 レベル (1)	バックグラウンド レベル (2)	予測結果 (1+2)	寄与 レベル (1)	バックグラウンド レベル (2)	予測結果 (1+2)	埋立作業 実施時間帯 (9～17時)	39 (38.7)	51 (51.2)	51 (51.4)	51 (50.7)	54 (53.5)	55 (55.3)	昼間	55	埋立作業 停止時間帯 (17～9時)	21 (21.2)	45 (44.6)	45 (44.6)	32 (32.3)	45 (44.6)	45 (44.8)	朝・夕	50	昼間	55	夜間	45
予測時間帯	予測結果（L _{A5} ）						時間 の区分	(注3) 規制 基準 値																																						
	北東側敷地境界				北側敷地境界 ^(注1)																																									
	寄与 レベル (1)	バックグラウンド レベル (2)	予測結果 (1+2)	寄与 レベル (1)	バックグラウンド レベル (2)	予測結果 (1+2)																																								
埋立作業 実施時間帯 (9～17時)	39 (38.7)	51 (51.2)	51 (51.4)	51 (50.7)	54 (53.5)	55 (55.3)	昼間	55																																						
埋立作業 停止時間帯 (17～9時)	21 (21.2)	45 (44.6)	45 (44.6)	32 (32.3)	45 (44.6)	45 (44.8)	朝・夕	50																																						
							昼間	55																																						
							夜間	45																																						

No.	項目	意見	事業者の回答の概要														
			<p>(注1) 北側敷地境界の予測地点は、埋立作業実施時間帯と埋立作業停止時間帯で異なる。 (注2) 時間の区分 朝：6～8時、昼間：8～18時、夕：18～22時、夜間：22～6時 (注3) 規制基準の区分 第2種区域（用途地域のない地域） (注4) 表中の（ ）内の数値は、計算に用いた値である。</p> <p>○住居等の保全対象施設が敷地境界付近等に立地した場合は、必要な騒音対策（遮音壁等）を講じ、敷地境界で騒音の測定を行うことにより、規制基準の遵守を確認する。</p>														
6	騒音	○騒音の廃棄物等運搬車両の走行に係る予測結果について、環境基準との比較は行っているが、要請限度との比較も行われたい。	<p>○現況において地点1及び地点3で環境基準を超えており、事業による騒音への影響を出来るだけ低減するよう、廃棄物等運搬車両について、特定の日や時間帯に集中しないよう運行指定を行うことや、搬入時間帯を昼間の9時から17時とすること、制限速度の遵守などの環境保全対策を行う。</p> <p>○変更後の廃棄物等運搬車両台数は最大で182台/日（往復）で、各予測地点を全ての廃棄物等運搬車両が通過することを想定した時の各予測地点における現況の交通量（12,675～15,558台/日（往復））に対する割合は1.2～1.4%である。</p> <p>○廃棄物等運搬車両の走行に係る予測結果（L_{Aeq}）は、すべての予測地点で要請限度（75dB）を下回っている。</p> <p style="text-align: center;">表3 廃棄物等運搬車両の走行に係る予測結果（L_{Aeq}） （dB）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況値 （L_{Aeq}）</th> <th>予測結果 （L_{Aeq}）</th> <th>要請限度 （昼間^(注)）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点1 市道唐国久井線</td> <td>70</td> <td>70</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">75</td> </tr> <tr> <td>地点2 国道170号 和泉丘病院</td> <td>68</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>地点3 国道170号 道の駅いずみ山愛の里</td> <td>71</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table> <p>（注）昼間：6～22時</p>	予測地点	現況値 （ L_{Aeq} ）	予測結果 （ L_{Aeq} ）	要請限度 （昼間 ^(注) ）	地点1 市道唐国久井線	70	70	75	地点2 国道170号 和泉丘病院	68	68	地点3 国道170号 道の駅いずみ山愛の里	71	71
予測地点	現況値 （ L_{Aeq} ）	予測結果 （ L_{Aeq} ）	要請限度 （昼間 ^(注) ）														
地点1 市道唐国久井線	70	70	75														
地点2 国道170号 和泉丘病院	68	68															
地点3 国道170号 道の駅いずみ山愛の里	71	71															
7	その他	○処分場の構造図において、えん堤は廃棄物ではなく土で造成することが分かるように修正されたい。	<p>○処分場の構造図（調査書P3-7の図3-1(5)・図面集P5の図1-2）のえん堤部を白色（廃棄物と同じ色）から灰色（覆土と同じ色）に修正する。</p> <p>○修正後の構造図を次頁に示す。</p>														

埋立標準断面図 S=1:1000

断面 ⑨-⑨



凡例		
記号	名称	備考
——	事業区境界	
---	既設区境界	
---	建設区境界	

貯留小堤詳細図

S=1:500

